

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290700079		
法人名	有限会社ケア・サポートI三沢		
事業所名	グループホーム赤とんぼ花園		
所在地	青森県三沢市花園町1-5-16		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和7年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内のメインアーケード街のすぐそばに当施設があり、地域のお祭等に見学に毎年出かけ、地域住民と触れ合う環境の中で生活しています。 施設内でも月行事を企画したり、また、日々の生活の中でも調理作業や創作活動等を行い、利用者一人ひとりが生きがいを持って生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは穏やかな家庭的な環境であり、利用者はゆったりと過ごされている。 職員は日頃から利用者とコミュニケーションを取り、本人の好みや習慣、今までの生活歴を大切に、「できる事は何か」「どのように過ごしたいのか」を引き出しながら、それぞれのペースで生活できるように支援しており、食事や清掃、洗濯等、できる事は役割として、生活の場面で活かされている。 また、コロナ5類移行後も感染状況に留意しながら、三沢の七夕祭りやドライブに出かけている他、天気の良い日はホーム周辺の散歩に出かけ、利用者の楽しみや気分転換となるように取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない コロナのため
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しながら、理念を共有し、日々のサービスに繋げている。	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、ホームの理念を作成して掲示している他、パンフレットにも記載している。職員は利用者のできる事を引き出しながら、日々の生活の中で継続できるように支援し、理念を反映させたサービス提供に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している他、天気の良い日は近所に散歩に出かけ、町内の人達と交流している。また、祭り等の地域イベントに参加している。	町内会に加入し、地域の行事や祭りに出かけている。また、ホーム周辺の散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、駐車場で井戸端会議をする等、利用者が地域と繋がりが暮らし続けることができるよう、ホームが地域の一員として日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員を派遣した認知症の予防、普及活動はないものの、見学や認知症に関する相談等があった場合は、その都度対応して答えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回対面式で、市の担当者や町内会長、民生委員、家族の代表者で、利用者の普段の様子や行事の取り組み、身体拘束に関する事等を報告している。また、メンバーからの意見や相談等を得て、サービスの向上に役立てるように努めている。	町内会長や民生委員、家族代表、市担当職員等の参加を得て、運営推進会議を開催している。会議では、ホームの現状等を報告している他、メンバーから地域の高齢者の現状について情報提供があったり、率直な質問や要望が出される等、活発な意見交換の場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議のメンバーであり、様々な情報提供をいただいて、ホームの現状を理解していただいている。また、地域包括支援センターとも連携し、情報のやり取りも行っている。（入所状況や入居相談等）	市の担当職員が運営推進会議に参加しており、様々な情報をいただいている。また、ホームの空き状況やサービスの取り組み等を伝えながら、良好な関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し、会社全体でできるだけ身体拘束は行わないという姿勢でケアを行っており、やむを得ない場合は、家族に説明し、同意を得ている。また、3ヶ月に1回、継続性の必要について職員間で話し合い、拘束ゼロに向けた見直しを行っている。	身体拘束は行わない方針で、マニュアルを作成し、日常の声かけについても職員同士で注意し合っている。必要に応じて、見守りのカメラを設置したり、玄関扉の高位置に鍵を設置しているが、家族に説明・同意を得ており、3ヶ月毎に現状を確認しながら話し合い、見直しをしている。また、帰宅願望があれば、職員が付き添って話を聞いたり、散歩や買い物に出かけて、利用者の気分転換を図って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前、職員全体で高齢者虐待防止法について学習する機会があった。最近は学習機会を設けることはできないが、管理者が注意深く観察し、虐待が行われていないか見守っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護に関する学習の機会を設けていたが、今は行っていない。現在の利用者で権利擁護の制度を活用している方はいないが、以前は数名いた。その際は、職員全体で制度等の理解を得ていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に施設長とケアマネージャーで対応している。家族には丁寧にわかりやすく説明し、その都度、理解できたか確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、利用者の報告と相談を受け付けている。また、面会に来れない家族には、利用者の生活状況を郵送している。家族代表が運営推進会議に参加している他、苦情受付窓口を重要事項説明書に明示し、外部に意見を出しやすいように働きかけている。利用者に関しては、利用者の表情や言動から察して、職員間で話し合い、意見を出しやすいように働きかけている。	職員は普段から利用者とコミュニケーションを取り、遠慮なく意見等を出せる関係作りに努めている。家族には面会時や電話連絡時に、ホームでの利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている他、運営推進会議には家族代表も参加しており、意見等を外部に出せる機会も設けている。また、毎月の「家族通信」では写真を添えて、利用者の健康状態や受診状況、暮らしぶりを丁寧に伝えており、家族が意見を出せるきっかけとなるように働きかけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議等で、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者と職員の関係性も良く、気軽に話せるような環境にあり、職員の意見を運営側に報告し、意見が反映されるように働きかけている。	ユニット会議では利用者のケア内容の検討、全体会議では運営方針の確認や周知、勉強会等が行われ、職員が意見や要望を出せるようにしている。職員から出された意見等は、日々のホームの運営やより良いサービス提供に反映させるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者なりの考えで、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容と職員個々の力量、希望に合わせて研修に参加するように働きかけ、外部のリモート研修を行った職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーが地域ケア会議に参加し、グループホーム同士での交流会があり、そこで得た情報を職員に周知した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴や施設に対する不安、困り事等を直接本人や家族から聞き、信頼関係の構築のために、コミュニケーションを十分に取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分にコミュニケーションを直接取った上で、職員間で話し合いながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者のニーズに対して、何が必要かを見極めてから、必要な支援を多方面で考え、対応するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの性格、特徴を捉え、利用者自身が積極的に行う家事作業や創作活動と一緒にやって、ケアの中に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族通信を郵送し、日々の生活ぶりと写真を添付して報告している他、面会時の際にも状況報告を行っている。また、定期的に家族に電話連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、入居後に関わらず、利用者や家族から聞き取りを行い、馴染の人や場所の情報収集をしている。	入居時の聞き取りや普段の会話の中から、馴染みの人や場所を把握している。ホームでは感染予防に留意して玄関での対応としているが、親戚や知人の面会があったり、電話や手紙等のやり取りをお手伝いし、これまでの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立することなく、常に職員は利用者同士の関係性を把握して、見守りと声がけを交えながら、利用者同士の関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から要望があった場合には、相談や支援を行えるように用意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの生活状況の中から、利用者の思いや意向を把握するように努めており、利用者の生活歴を尊重した支援を行っている。また、利用者の意向が十分に把握できない場合は、日々の職員間の申し送りやアセスメント、カンファレンスを開催し、場合によっては家族からも聞き取りをして、利用者の意向の把握に努めている。	職員は日頃から利用者とコミュニケーションを取りながら、思いや意向の把握に努めている。また、その人らしい生活を継続できるよう、利用者の個性や習慣、これまでの生活歴を大切にしており、「できることは何か」「どのように過ごしたいか」等を確かめながら、職員間で共有し、支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からの聞き取りの他、これまで受けていたサービス提供施設からの聞き取りや情報提供により、把握に努めている。また、入居後も、利用者や家族の話を通して把握する場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の申し送りやケース記録排泄、睡眠チェック表を活用している。また、振り返りをする等して、職員間の情報支援やユニット会議を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で介護記録等を参考にして話し合い、利用者主体の介護計画を作成している。6ヶ月に1回、介護計画を見直し、モニタリングを行うが、状態の変化やプランに合っていないような場合は、実施期間内でも再アセスメントを行い、見直しを行っている。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、利用者や家族の意見や要望を十分に聞き、職員間で話し合いの上、介護計画を作成している。ホームでは、利用者の現状や希望が盛り込まれた問題提起や解決策を記載した介護計画を作成しており、モニタリングして次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの経過記録等をタブレットにて記載し、日々、職員間で記録の内容を把握できるように整備している。それらを基に職員間でカンファレンスを開催し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が外に出たがってる時や施設内での生活でストレスが溜まっている場合等、臨機応変に、ドライブやコンビニ等で買い物をする等して、外出支援にあたっている。また、月に2度、移動販売車が施設へ来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でもあり、外部との接触機会はコロナ前より減っているが、徐々にではあるが、民生委員の慰問等を受け入れて楽しむように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関や入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう、支援している。必要に応じて、家族も受診に同行する場合もあり、病院受診の結果は、家族全員に報告している。	入居時にかかりつけ医の継続について確認し、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援しており、受診結果は家族に報告している。また、週1回、訪問看護師が利用者の健康チェックをしており、24時間の連携体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による健康管理を行っている。訪問看護師と24時間連絡が可能であり、いつでも相談することができる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は面会時や電話連絡等をして、病院の看護師から状況説明を受けている。退院時に関しても、病院内にある医療連携室とも密に情報交換を行い、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、重要事項に事業所としての方針を明確に記載し、入居時に家族に説明して、理解してもらっている。常時医療行為が必要となった場合は、他施設や地域包括支援センター等に相談し、次の受け入れ先を探している。	入居時に、ホームでは現在、看取り介護は行っていないことを説明している。また、できる限りホームで過ごしてもらい、状態の変化に応じて、利用者や家族と話し合い、安心して最期を迎えられるよう、入院や転所の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法・対応マニュアルを作成し、全職員が理解している。救急救命訓練は定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、利用者の避難誘導や消防士への通報訓練等を行っている。また、災害発生時に備え、敷地内に水や食料、日用品、発電機等を用意している。	定期的に避難訓練や通報訓練、設備点検を行っており、災害時に備えた食料や物品をリスト化し、ストーブや発電機等と共に、敷地内の管理棟に保管している。訓練は利用者と職員が一緒に行い、具体的な場面を想定して取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全利用者に対して言葉遣いに配慮し、利用者の言動は否定、拒否しないよう、受容的な姿勢で取り組んでいる。また、介助時、介護時の声がけは、利用者の羞恥心に配慮して行っている。ホーム全体としても言葉遣いには注意し、会議等を通じて振り返りを行っている。	理念に「自分らしさを失わない」を掲げたとおり、職員は利用者の言動を否定せず、十分に話を聞くように心がけ、何をして、どのように過ごしたいかを確かめながら、利用者のペースに合わせて支援している。また、プライバシーへの気配りや個人情報の保護についても、職員は配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの得意な事、できる事を優先して、利用者が自ら決定できる場면을促している。また、意思表示ができない利用者でも、本人の様子やこれまでのアセスメントから統合して、自己決定をする場面を作って支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を確認したり、利用者の精神状況や身体状況に合わせて、柔軟な対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の頭髪セットやひげ剃り、洗顔、衣類の交換等を行っている。生活している中で衣類等の乱れがあった場合は、さりげなくサポートしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に配慮して、旬の食材や食べたい物を取り入れた献立を作成している。また、利用者と職員が一緒になって調理をしたり、お茶碗洗い等、家事作業を常に行っている。また、食べこぼしのある利用者には、さりげなくサポートしている。	併設施設の管理栄養士が献立を作成し、職員が調理した手作りの食事を提供している。ホームでは週2回、自由献立の日を設け、利用者の希望を取り入れて、食事を楽しめるように工夫している。また、利用者は食事の下拵えや食器拭き、配膳等を職員と一緒にしており、職員は利用者それぞれのペースを大切にして、見守りながら、楽しく食事時間を過ごせるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を記録している。管理栄養士により栄養バランスを確立している。一人ひとりの状態を見て、トロミの使用、キザミ食やミキサー食にも対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの口腔ケアを、見守りや介助にて行っている。義歯の利用者は毎日夕食後、入れ歯洗浄剤で除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄記録表に時間毎の排尿、排便を記録し、パターンを把握した上でトイレ誘導をして、トイレで排泄するように対応している。	排泄の感覚を大切にして、利用者一人ひとりのタイミングで誘導し、日中はトイレで排泄できるように支援している。また、誘導時はさりげなく声がけをしており、利用者の状況に合わせて、オムツ使用の見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や下肢運動、歩行運動を行っている。食事のメニューに乳製品も多く取り入れている。水分補給を多めにしているが、下剤でコントロールしている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが週2回入浴できるようにしている。入浴日に拒否があった場合は、別日にずらしている。順番や温度設定、長風呂等の希望に対応し、入浴を楽しめるように支援している。	一人週2回は入浴できるように支援しており、午後に3名の入浴介助とし、ゆっくりと入浴してもらっている。職員は利用者の入浴習慣や好みを聞きながら、負担感なく、気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を観察し、日中、ベッドで休息を取る利用者もいる。夜間は腰に負担がかからないよう、ギャッチベッドの角度を調節し、安眠に努めているが、睡眠サイクルが乱れている利用者には、医師と相談して薬で調整する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬説明書をいつでも確認できるよう、ファイルしている。また、薬の変更時は全職員に記録、通院表、申し送り等で共有している。薬局と24時間、いつでも相談できる体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力量を把握し、家事作業ができる方には行ってもらい、できない利用者には貼り絵や塗り絵、計算ドリル等、その方に合った作業を行っている。また、月1回の行事やドライブ等をして、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺を散歩したり、施設所有の畑や花壇で花を觀賞したり、柿を収穫して干し柿作りをしている。また、市内の祭りに出かけたり、ドライブでは観光スポットや公園に出かけている。	コロナ5類移行後も感染予防に留意しながら、市内の七夕祭りやアメリカンデー、桜の名所、公園等に出かけている他、天気の良い日は、ホーム周辺の散歩に出かけている。また、家族の協力を得て、墓参り後の食事等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設、または社会福祉協議会で管理しているが、利用者が希望した時は、自由に使えるように支援している。令和6年12月から訪問販売を活用し、買い物を楽しむ機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りをしている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は温度、湿度を毎日チェックし、調整している。ホールは天井が高く、開放的な空間となっており、日差しも十分に入り、日中は適度な明るさを保っている。共有スペースには十分な椅子やソファを設置し、また、壁には月毎に利用者が作成した作品等を飾っている。	広いホールには自然光が入って明るく、床暖やエアコン等を使用して、定時に温・湿度の管理をし、快適な共有空間作りを行っている。また、利用者と手作りした節分等の作品を飾り、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や相性を見極めて、テーブル席の配置を決めたり、ソファの位置を替えたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう、家族や本人にアプローチしている。アルバム、日記、愛読書等を持って来る利用者もいる。また、居室内には施設内で作った作品やカレンダー、写真等を壁に貼り、居心地良く過ごせるよう、居室作りを支援している。	使い慣れた物や愛着のある物を持って来てもらえるように働きかけており、居室には写真やアルバム、位牌等が置かれている。職員は利用者の状態に合わせ、安心して過ごせる、その人らしい居室作りを一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は家庭的且つ安全に配慮した造りになっている。利用者のできる事に着目し、アセスメントを行い、実施している。		